

阪急電車「京とれいん」

高垣優輝

(2019 年度入学 鈴木ゼミ 3 期生)

1 はじめに

普段多くの人とはどのような電車を使って、通勤・通学または旅をしているだろうか。私は普段河原町や大学に行く際、阪急京都線を利用している。その路線では他の電車とは一風変わった電車が運行している。関西以外の人には聞き馴染みがないと思う。それは「京とれいん」「京とれいん雅楽」である。この電車は運行している時間が限られていることもあり、普段阪急京都線を利用しない人はその存在自体知らない人が多い。私もこの電車のことを知ったのが大学 1 年生の時に大阪梅田駅で止まっている車両を見た時である。

2 京とれいん・京とれいん雅楽とは

「京とれいん」とは阪急の大阪梅田駅から京都河原町駅までを結ぶ電車である。乗車した瞬間から京都への旅の期待が高まるような演出を施すため 2011 年に登場したのが 6300 系 6354F をリニューアルしたものである。通常の阪急車両とは異なり、京都の「和」と「モダン」を乗車中に体験できる仕様となっている。2011 年に通常の阪急電車を京風に改装し、同年 3 月 19 日に運行を開始した。当初は、梅田・嵐山間の臨時快速特急として運行が開始された。



「京とれいん雅楽」とは 2011 年 3 月から営業運転を開始している観光特急「京とれいん」が好評を得ており、訪日外国人の利用も増加傾向である。そのため、さらなる沿線観光地の PR と旅客誘致に繋げる目的で開発が行われた。この「京とれいん雅楽」の名称は、初代「京とれい

ん」のイメージを継承しつつ、「ご乗車された時から京都気分」のコンセプトを表現するため、雅（みやび）な都へ向かう列車という意味を込めて「雅楽」という造語をつけられた。訪日外国人増加の観点から日本語・英語・韓国語・中国語の4ヶ国語に対応した車内案内を行なっている。

このように普通の阪急車両とは仕様や運行時間が異なることから、運賃が異なると思われるが、通常料金で乗車できる。やや同じ区間を走行する JR 京都線にはこのような特急列車はない。最近運行を開始した、京阪電車の特別列車「プレミアムカー」は乗車料金とは別に特急券（500 円）が必要になる。また、予約は不要で自由席になっており、乗車に関して煩わしさを感じることはないと思われる。停車駅に関しては「京とれいん 雅楽」と「京とれいん」とで異なる。「京とれいん」は大阪梅田、淡路、桂、烏丸、京都河原町となっている。一方で「京とれいん雅楽」の停車駅は大阪梅田、十三、淡路、桂、烏丸、京都河原町となっている。

3 外装・内装について

今まで京とれいんの概要について述べたがここから本題のデザインについて。「京とれいん」は扇をあしらった外装が特徴的である。6両編成の列車は、2両ずつ異なる車内デザインを施し、それぞれ趣のある車内空間を演出している。また、伝統素材である和紙を用いた「創作和紙ポスター」を各車内に掲載している。この創作ポスターの制作には、京都を起点に活動している和紙作家・堀木エリ子さんを起用し、京都らしい意匠に手がけた。



1・2号車、5・6号車は「京唐紙」をモチーフにしている。桂離宮や寺院、茶室などに現在でも使われている「京唐紙」の伝統柄を取り入れている。1・2号車では「蘭の華散らし」、5・6号車では「麻の葉」をイメージしている。

3・4号車は「京町家」をイメージしている。客室への車内エントランスとして格子状の飾りを設け、デッキ風のデザインになっている。また、客室は半個室空間の演出を施した他、「創作和紙ポスター」や座席背もたれの一部には畳を使用するなど京都の町家をイメージした内装になっている。

「京とれいん雅楽」は「和モダン・京町家」をイメージした内装を継承しつつ、新たな試みとして、6両編成の1両ごとに季節を定め、異なる外観や車内デザインとし、何度乗っても楽しめる仕様となった。



1・6号車では「賑わいの時間を楽しむ」ことをもとにゆったりとした「京町家の空間」をイメージしている。そのため座席間隔を広く取った畳調のボックスシートが並ぶ。家族やグループで旅行の際には団欒を楽しむことができ

る。3・4号車では「大人の時間を楽しむ」ことをもとに車窓を流れる沿線の風景を満喫できる。窓向き座席とカウンターテーブルが配置されている。また、1人座席が多く配置されているため、ひとり静か旅情を味わう贅沢なひとときを過ごすことができる。2・5号車では「風流な時間を楽しむ」ことをもとに京都の庭と円窓を流れる風景を楽しむことができる。2号車は「枯山水の庭」5号車には「京町家の坪庭」があしらわれている。

4 まとめ

このように多くの観光客誘致のために「京とれいん」が開発されたが、昨今の新型コロナウイルスの流行によって鉄道業界にも大きな影響があった。アフターコロナでも大きな人の動きが見込まれることは少ないと考えられている。そのため、多くの鉄道会社が会社をより一層筋肉質に変えて行く（現状のコストを見直し、浮いたコストを稼げる箇所に投資することで収益を改善する）ために現在の旅客による「移動に対して付加価値をつけること」「鉄道会社各社が保有している所有資産（ヒト、モノ、カネ）の見直し」の2点が必要である。この観点から、「京とれいん」は移動に関する付加価値、他社との差別化が図られており、今後の鉄道業界への道しるべとなっている。このような特急列車が増えて行くと旅客だけでなく、普段電車を使う際にも電車の使用率が上がっていくだろう。ぜひ、「京とれいん」に乗り、その良さを知り、これからの鉄道業界の発展に結びついて欲しい。

（参考文献）

お座敷体験～宴～ <https://ja.travel-kyoto-maiko.com/traveltips/6950>

乗り物ニュース <https://trafficnews.jp/post/83351>

阪急電鉄 https://www.hankyu.co.jp/sp/area_info/kyotrain-garaku/

阪急電鉄 <https://www.hankyu.co.jp/sp/cont/miraisen/entry/kyo-train.html>

阪急電鉄株式会社 [\[hanshin.co.jp/legacy_data/ir/data/ER201102212N1.pdf\]\(https://www.hankyu-hanshin.co.jp/legacy_data/ir/data/ER201102212N1.pdf\)](https://www.hankyu-</p></div><div data-bbox=)

阪急電鉄 <https://www.hankyu.co.jp/sp/cont/miraisen/entry/garaku.html>

IBM アフターコロナに鉄道会社が求められるものとは

<https://www.ibm.com/blogs/solutions/jp-ja/ic-travel-transportation-rail-for-after-corona/>